

カーゴニュース

第 3 9 5 0 号

2010年(平成22年)12月16日
毎週火・木曜日発行

昭和44年11月28日
第三種郵便物認可

http://www.cargo-news.co.jp
info@cargo-news.co.jp
sales@cargo-news.co.jp

○発行所 (株)カーゴ・ジャパン
 ○本社 東京都港区六本木4の5の10
 郵便番号 106-0032
 電話 03(5771)2101(代表)
 FAX 03(5771)2100
 ○発行人 西村 國紀
 ○購読料 3ヵ月 15,750円
 (送料、消 6ヵ月 31,500円
 費税込) 1ヵ年 56,700円
 ○郵便振替口座 00160-1-106892
 ○銀行振込 三菱東京UFJ銀行六本木(普)0012383
 みずほ銀行六本木(普)1082206
 (株)カーゴ・ジャパン

おもな内容

特別編集企画 輸送安全特集

安全はすべてに優先——物流業界の最新の取組みは:

◇インタビュー 「運輸安全マネジメント評価」を聞く

◇レポート 国土交通省運輸安全政策審議官 梶野龍二氏... 9

▽普及するGマーク、認定事業所が1万5千を突破へ... 11

▽車両代替、新型ATS導入などに取組むJR貨物グループ... 14

▽合同で安全対策を共有化「メーカー系物流会社の研究会」... 16

▽安全輸送の切り札、最新機器・ソリューションを見る

データ・テック、富士通テン、東海電子、フィガロ技研... 18

▽検証！運行管理者制度の20年、定着した試験制度... 20

▽交通安全、荷役事故など労災撲滅へ「陸災防の取組み」... 23

▽安全を支える車両整備「ヤマトオートワークスの取組み」... 17

▽事業領域の拡大進めるSGモーターズ... 20

▽交通事故撲滅を目指し総決起大会を開催「埼玉県ト協」... 21

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

○...荷主、事業者に加え消費者も招き今年もグリーン物流PS会議... 27

○...北東アジア物流情報ネットの構築へ日中韓3国が覚書に署名... 28

○...アルフレッサが首都圏をカバーする埼玉物流センター稼働へ... 28

○...アルプス物流の中国現法が環境ISOと品質ISO認証を取得... 28

○...NTTロジスコが回収量自動検知機能付き機密文書回収サービス... 29

○...「春闘は6000円中心で」運輸労連セミナーで山浦委員長... 29

○...川崎近海汽船が北関東〜北九州間RORO船の関東寄港地を変更... 30

○...商船三井が日本・欧州コンテナサービスでベトナム直接寄港開始... 30

○...国土交通省政務三役の記者会見... 33

webasto
Feel the drive

アイドリング燃費削減

最大90%

ベバスタのアイドリングストップヒーターで
年間100,000円以上削減可能
ぜひご相談ください!

アイドリングストップヒーター **検索**

ベバスタ ジーシーエス ジャパン株式会社
横浜市港北区新横浜3-8-11 TEL.045-474-1761 FAX.045-474-1763
www.webasto-gcs.co.jp

線脱線事故を契機に「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」が改正されたことで、11年度までに主要線区を走る列車には最新のATS-Pなどに対応しなければならなくなっている。

JR貨物は08年4月から従来のATS-SFよりも保安度の高いATS-PFを首都圏や近畿圏を走る機関車に取り付けている。ATS-PFはカーブなどで制限速度を超えた場合は自動的に非常ブレーキを作動させる。また、上り坂区間などで停止している間に、運転士が居眠りをして列車が逆走し始めても非常ブレーキがかかる「後退検知機能」も付いている。

レポート

合同安全研修やドラコン、eラーニングなどで取組みを共有化

メーカー系物流会社で構成する物流技術研究会

安全に関する取り組みを企業の垣根を越えて共通化することは、お互いの企業のためにも、トータルで物流業界をみた場合にも大きな意味がある。こうした意識から資本関係のない複数のメーカー系物流会社が共同で安全や品質に関する各種取り組みを進めている。

●8社が合同で安全や品質に関する取り組みを展開

安全や品質に関する取り組みの共通化を目指して、合同での各種研修を行っているのはアサヒロジ、大塚倉庫、キリン物流、サッポロ流通システム、サントリーロジステイクス、タカラ物流システム、パンテック、明治ロジテックの8社で構成する物流技術研究会。

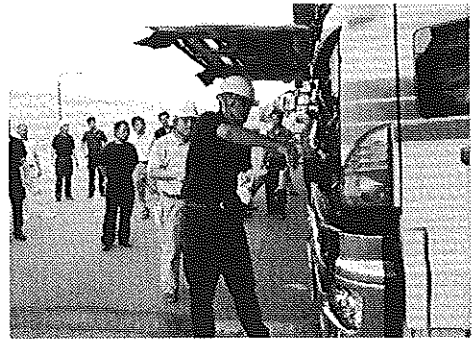
同研究会は07年11月に最初の合同研修である配車担当者向け合同安全研修を開催した。08年には配車担当者向け安全研修に加えて、合同のドライバーインストラクター研修やフォークリフトインストラクター研修を追加するなど活動の幅を広げるとともに、同年6月にタカラ物流システム、アサヒロジ、キリン物流に加えて、新しく大塚倉庫、サッポロ流通システム、サントリーロジステイクス、パンテックがメンバーに参加。09年2月には明治ロジテックが加わり、現在の物流技術研究会の構成企業がそろった。

●安全や品質に関するノウハウや取り組みを共有化
同会の会長を務める丸山利明タカラ物流シス

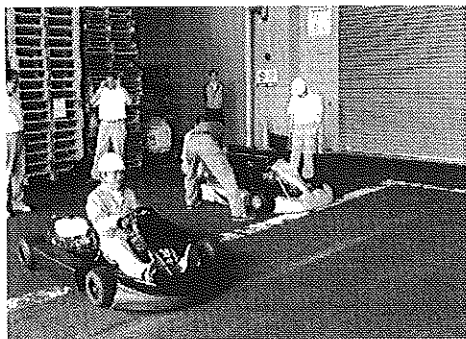
JR貨物は運転支援システム「PRANETS (Positioning system for Rail Network and Safety operating)」の導入によって08年度の「日本鉄道賞選考委員特別賞」を受賞しているが、GPSで走行中の列車位置をリアルタイムに把握するシステムを活用して、通運事業者に対してコンテナの輸送状況が確認できるサービスも提供している。

環境問題に対する関心が高まり、その受け皿として期待されている鉄道貨物輸送にとって、安全面の投資は、輸送サービスの向上にも結びついているようだ。

テム常務執行役員安全品質環境推進室長は「飲料や酒類に関わる物流を行っているメーカー系物流会社同士で安全や品質に関するノウハウや取組みを共有化しよう、というところが発足のきっかけ。安全や品質について、どのようなノウハウを共有化するかの具体的な案として、安全施策に関する問題解決、安全施策の共通化、人材の育成の3点を柱に据えた。そのうちの人材育成については、現場で安全に関する教育を行える人材が少ないことに



ドライバーインストラクター研修は実技と座学を実施



カートを使った研修では先急ぎの心理を検証する

各社とも悩んでいた。現場での指導者育成のために様々な関係機関で行っている取り組みを試してみたが、こちらが望む水準の教育内容を実施してくれるところはなかなか見つからなかった。そこで各社が持つ安全に関するノウハウを取り入れ、合同でのインストラクター研修を行うことになった」と説明する。

さらに「インストラクター教育を行う一番の意義はパートナー企業をいかにスキルアップするか。飲料や酒類業界は物流の共同化が進み、メーカー系の物流会社同士が他社の荷物をパートナーで運ぶことも多い。そのため、他社の取り組みを知ることや、安全に対する一定の基準を設けることはお互いにとってメリットがある」と意義を語る。

●合同研修はドライバーインストラクター、フォークリフトインストラクターなど複数テーマで実施

同研究会では各社の担当者が集まる会合を定期的に開き、様々な取り組みを計画・実施している。

話題

安全を支える車両整備

ヤマトオートワークスの取組みは

ヤマトオートワークス(佐々木敬史郎社長)は24時間・365日営業で、車を止めない車検を実施している。全国60カ所に整備工場を配置しているが、なかでもスーパーワークスと名付けた整備工場ではモバイル点検システムをはじめとしたシステムで、利用者と約束した時間内の車検を実施しているほか、部品の交換履歴や耐用年数などを考慮した車検を実現することで、安全確保に一役買っている。

整備履歴を全国で共有していることから、どこでも車検が可能なか、法定3か月点検も整備工場に持ち込まなくても出張点検するなど、利用者の利便性向上にも力を入れている。

スーパーワークスは全国に17店あるが、雨水を利用した洗車・廃油を利用した工場内床暖房などの資源循環型設備を整えるなど環境にも配慮した設計となっており、物流業界に求められている安全と環

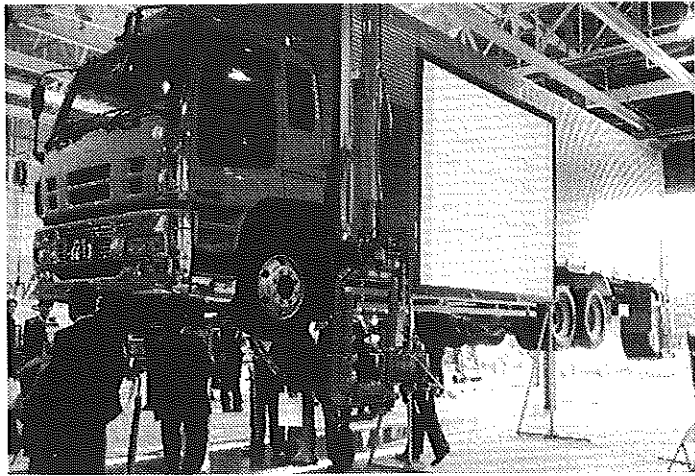
これまでに行った主な合同研修会はドライバーインストラクター研修、フォークリフトインストラクター研修、運行管理者スキルアップ研修及び配車担当者研修会、5S研修会など。それぞれの研修で使用するテキストも独自で作成している。

こうした合同研修に加えて、09年からは同研究会独自の大型ドライバーコンテストも開始した。

●10年からはeラーニングもスタート、さらなる参加企業も予定

10年にはさらに自社や協力会社のドライバー向けeラーニングや独自の飲酒習慣セルフチェック冊子の作成を行った。ドライバー向けeラーニングではドライバーとしての基本知識や車両トラブル時の対応、荷造りに関する知識、飲酒関連などを問題に盛り込んでいる。ドライバー向けを先行して開始したeラーニングだが、10年12月からはフォークリフトマン向けと配車担当者向けのeラーニングも始めている。飲酒習慣のセルフチェック冊

境、そしてコストダウンを意識した展開を進めている。今後は地域密着型の比較的中規模の整備工場の配置に力を入れていく。



安全な運転のために確実な点検を

子は同研究会に所属の各社に加えて、協力会社
に対しても配布している。
取り組みの幅を広げ続けている物流技術研究

レポート

安全輸送の切り札!

最新機器・ソリューションを見る

データ・テック、富士通テン、東海電子、フィガロ技研

安全問題が経営上の最重要課題となる中、安
全輸送を支えるドライブレコーダやアルコール
検知器といった機器類は必要不可欠なものとな
っている。

なかでも、ドライブレコーダは交通事故削減
に大きく貢献した。例えば東京都トラック協会
(星野良三会長)は「事故半減3ヵ年計画」を目
標どおり達成したが、これは会員事業者が安全
意識を徹底したのはもちろんのこと、ドライブレ
コーダ導入によるところも多い。

運転手はドライブレコーダに記録された事故
映像を見ることが、ヒヤリハット(危険挙動)
を生じることが避けられるようになり、事故
の発生が大幅に減少することとなった。これに
加えて導入補助による装着率アップが目標達成
のカギともなった。

東京都トラック協会では次の目標として「事
業用自動車総合安全プラン2009」の中に掲
げられている「飲酒運転の根絶」に着手。アル
コール検知器の導入によって「酒気を帯びた状
態」での乗務を未然に防ぐ。

会員事業者の装着を促すため助成制度を設け、
検知器1器あたりの購入価格・リース料金が1
万円以上の製品に対して全額を助成する(ただ
し、1事業者につき3万円が上限)。来年の4月
には対面点呼強化の一環からアルコール検知器
の導入義務化が控えており、いち早い導入が急
務となっている。

こうした安全機器は今では、様々なメーカー
が多種多様な機器の販売・ソリューションを提
供している。今回、ドライブレコーダとアルコ
ール検知器の主要メーカーそれぞれ2社の最新
情報を紹介する。

■ドライブレコーダ

データ・テック 『SRシリーズ』

データ・テック「SRシリーズ」(写真)の最

会だが、11年には複数企業の新規参加も見込ま
れており、活動の幅は今後さらに広がるようだ。

大の売りは、
事故を起こさ
ないための
「事故予防型
ドライブレコ
ーダ」と言え
る。

まず、加速
度計とジャイ
ロを用いるこ
とで車の挙動
を計測する。
次に、ブレー
キや停止、ハ
ンドル、右左
折といった日
常的なドライ
バーの運転のクセを診断し解明する。そして、
そのクセを改善していくことで安全運転に導く
という仕組みだ。

こうした診断の結果は項目ごとに点数で表示
されるため、同僚や運行管理者と情報を交換し
ながら改善につなげることもできる。さらに診
断結果はマイナスイ面を指摘するだけでなく、
プラスの面も評価する。利用者からは「ドライ
バーを褒めるドライブレコーダ」との評価も聞
かれる。

また、顧客へのアフターフォローも同社の強
み。取得データの解析結果の見方、ドライバー
への指導方法をアドバイスする「6ヵ月フォー
ム」、運用での悩みや疑問を解決する「セミナー」、
導入企業の事例や効果を発表して情報交換を行
う「お客様交流会」——で万全のバックアップ
体制を築いている。

富士通テン 『OBVIOUS レコーダー』

富士通テンのドライブレコーダはトヨタ、ホ

